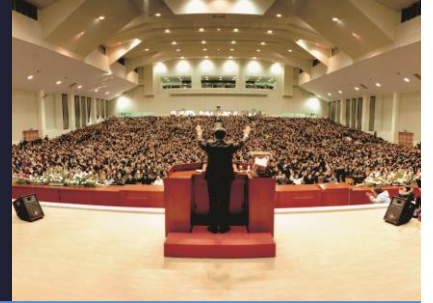


恵みと真理のニュース



2017 年 10 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

主の所を離れ失足しそうだった私を主は再び立ち上げてくださり、

主の恵みの中でおるようにしてくださって感謝します

子供の頃いつかはわからないですが、母をついてよく紫の教会カバンを肩にかけて畑の道を歩いて主日ことに恵みと真理教会のイワン聖殿に向かいました。月曜日の夜と金曜日の夜は教会から帰って来てお父さんが起きないようにこっそり家に入りました。母をついて主日ことに教会へ行って礼拝を捧げるのがTVのディズニー漫画より好きだったし、伝道すると先生から褒められてあめ首輪が世の中でもらう一番のプレゼントより好きでした。クリスマスになると演劇と手話賛美をして小学校1年の時、伝道賞と模範賞を受けました。私は教会の大人達から信仰がきれいだとたくさん褒められる子供でした。

そうするうちに2000年に私の家が忠清南道のソサンで引っ越しをしました。そこで恵みと真理教会が建てられる前でした。母はあちこちの教会に何回礼拝に参席してから教会に行かなかったです。当時私はその母を理解できませんでした。そうしながらうちの教会の聖徒が一人二人、私の家の近くに引っ越しをして恵みと真理教会の聖徒達と共に往復4時間かかるピョンテクのアンジュン聖殿に行って礼拝を捧げました。小学校2年生の以後、再び恵みと真理教会に行って礼拝を捧げるようになって私はとても喜んで新しく感じました。教会学校で中等部の礼拝を捧げて修練会も行って新しい心で神様の御言葉を習って私を愛してくださって、魂が新しく生まれ変わって子供にくださった神様の愛を深く悟って恵みに感謝しました。生まれ変わる 生まれ変わる
その後2年が過ぎてここソサンでもうちの聖殿が建てられました。私もおこずかいを節約して建築献金を捧げて切に祈った



【信仰コラム】

神様を愛する者が話す言葉

“神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”（ローマ人への手紙 8:28）

旧約聖書の創世記でその生涯の記録が最も多い分量を占める偉人はアブラハムであります。そしてここに類える程の分量を占める人物はヨセフです。この二族長の生涯は“神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さる”ということをとて劇的に証明しています。カナンに定着した後アブラハムは財産が増え続けて家畜と金銀が豊富になり、甥のロットも家畜が多くなりました。彼らが一緒にするには狭くなったのでロットはソドムのヨルダンに移動しアブラハムはヘブロンに行きました。ロットは信仰生活に有利な所よりは事業することに有利な所を選択したので結局はソダムに入って生活しました。このような選択がついにロットを危機に処するようになりました。ケダラオメル王が連合軍を編成しソダムを始めとする南側の五つの国家を侵攻してソダムとゴモラの全ての財物を奪取しロットとそこに住んでいる人々を捕虜として捕まえて行きました。この消息を聞いたアブラハムは家で訓練した 318 人を連れて隣人の協力を得て夜間奇襲を敢行、ケダラオメル王の連合軍を撃破して全ての財物を取り戻しロットと家族、捕虜として捕まえられた人々を救出しました。そして戦利品を自分が取らずに返してあげました。これによってアブラハムはその地域社会で大きい尊敬と信頼を受けるようになりました。この事件は

万事を益となるようにして下さる神様の摂理と恵み対してアブラハムが体験した数多くの事例の中で一つです。ヨセフは父親ヤコブの寵愛を独り占めして兄達の憎しみを買いしました。ヨセフは自分が兄達より高い地位にいるようになる夢を二度も見ましたが、これを口に出したので兄達が彼をより憎みました。ある日、父親の使いで羊を飼う場に訪れたヨセフを兄達がエジプトに行く商人に売り渡しました。ヨセフはエジプト王パロの侍衛長ポテパルの家に売られました。ヨセフは任された事事をとて誠実に行きポテパルの信任を得て家の全てのことを管理する総責任者になったが、ポテパルの妻の計略にはまって悔しい濡衣を着せられ監獄につながれてしまいました。ヨセフは監獄で王の給仕役の長と料理役の長が見た夢を解釈してあげ、ヨセフの夢合わせの通りに給仕役の長が三日後に復職されました。2 年が過ぎたある日、エジプトの王が夢を見たがその夢がいかにも鮮明なので心を煩わすのでエジプトの魔術師とすべての知者呼んでその夢を解釈するよう命令したが彼らは到底解釈することができませんでした。その時、給仕役の長がヨセフを思い出して王にヨセフを勧めました。ヨセフは王の夢が 7 年の豊年の後に 7 年の飢饉が迫るのを知らせるのだと解釈して災いに対する賢い対処方法まで話しました。王が感嘆して感心して直ちにヨセフをエジプトの総理の場に座らせました。凶年で足りない糧食を買いにエジプトに来たヨセフの兄達はエジプトの総理が彼らが売り渡したヨセフだということを知りました。時間が経って父のヤコブが死んだら兄達は自分達が過去にヨセフに犯した罪によって仕返されるのではないかと心配しました。そのような兄達にヨセフが“あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変わらせて、今日のように多くの民の命を救おうと計られました。それゆえ恐れること

はいりません。わたしはあなたがたとあなたがたの子供たちを養いましょう”と言いました。ヨセフの言葉は“神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”という御言葉と一脈相通ずる話です。神様を愛する者には彼が神様を愛するという証拠があります。イエスキリストだけを救い主として信じ、イエスキリストの神様だけに仕えます。イエスキリストを述べ伝えます。神様の助けを信頼して主のことに励みながら生きていきます。“わたしたちは知っている”神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さるとしました。私達がこれを知る根拠は三つです。一、神様が約束なさったからです。二、聖書に記録された人々の経験を通じてです。三、自分の経験を通じてです。“私達が推測するが”ではありません。“わたしたちは知っている”です。“私達が望むが”ではありません。“わたしたちは知っている”です。

「テョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

これらの祈り (5)



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

ユダヤ人たちは、午前 9 時、正午、午後 3 時を祈る時間に決まっています。初代教会も、これらの慣習に従っています。ペテロとヨハネが、午後 3 時に祈ろうと聖殿に向かって行く時に美門の前に座って物乞いする身体障害者を見ました。ペテロとヨハネが身体障害者に注目しました。ペテロが彼に向け「私たちを見てください。」としました。身体障害者は、予想外の要求に期待感を持って見つめてみました。ペテロが言いました。「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。」とペテロが身体障害者の右手を取って起こして身体障害者は、すぐにむっくり起きて歩いて走りました。生まれながら 40 年を歩くのができなかった人が完全に治って歩いて走って神を賛美しながら、聖殿の中に入ると、その姿を見た人々が深く驚き奇異に思いました。彼らがソロモンの廊と呼ばれる柱廊にいた彼らのところに駆け集まってきた。ペテロはこれを見て、人々にむかって言った、「イスラエルの人たちよ、なぜこの事を不思議に思うのか。また、わたしたちが自分の力や信心で、あの人を歩かせたかのように、なぜわたしたちを見つめているのか。」そして、イエスの名が、それを信じる信仰のゆえに、あなたがたのいま見て知っているこの人を、強くしたのであり、イエスによる信仰が、彼をあなたがた一同の前で、このとおり完全にいやしたのである。（使徒行伝 3:16）続いて聴衆を向けて、悔い改めて、イエス・キリストを信じて罪の赦しを受けると促しました。信じる人が多くて人の数が五千人になりました。使徒たちが説教しているという報告を受けた聖殿の総責任者が祭司とサドカイ人を連れて現場に来て、ペテロとヨハネを逮捕して刑務所に閉じ込めました。翌日、彼らはサンヘドリン議会を開き、ペテロとヨハネを尋問しました。その核心は、ペテロとヨハネが身体障害者を癒した事件のことでした。どんな力と誰の名前でこの仕事を行なったのかと聞きました。ペテロが聖霊に満たされて答えました。「つけられて死にましたが、復活したイエス・キリストの名で身体障害者が健康になった。この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」サンヘドリン議会員は、ペテロとヨハネの弁論を聞いて驚きを隠せませんでした。その理由は、彼らがガリラヤの漁師の出身で無知な者と考えたのに有識者のように話したからです。彼らは使徒たちに厳命するのを「ペテロとヨハネとは、これに対して言った、「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」（使徒行伝 4:19,20）しました。伝道を放棄するように議会の命令について、ペテロとヨハネが全面拒否してから今は他に処罰する方法を知らず、もより強力な脅威をした後に放れてくれました。

ペテロとヨハネの言葉を聞いた使徒たちと聖徒たちがすぐに行った行動は、祈ることでした。彼らは叫び祈りを “一同はこれを聞くと、口をそろえて、神にむかい声をあげて言った、「天と地と海と、その中のすべてのものとの造りぬしなる主よ。あなたは、わたしたちの先祖、あなたの僕ダビデの口をとおして、聖霊によって、こう仰せになりました、『なぜ、異邦人らは、騒ぎ立ち、もろもろの民は、むなしいことを図り、地上の王たちは、立ちかまえ、支配者たちは、党を組んで、主とそのキリストとに逆らったのか』”（使徒行伝 4:24-26）しました。そしてまた、祈るのを、「主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい」（使徒行伝 4:29,30）としました。使徒たちと聖徒たちが心を合わせて、声を上げて求めた内容を分類すると、3つのです。

第一に、「主よ、今、彼らを脅かすこと見下ろして下さるように」と祈りました。

その脅威とはサンヘドリン公会と、それらと結託したユダヤ人の脅威を指します。サンヘドリンは、ユダヤ人の最高の議決機関であり、最高の宗教裁判所でした。その権限は強大でした。イスラエルの宗教、社会、道徳、政治などの懸案に対する議決と司法権がありました。法定最高刑である死刑も求刑することができました。このように強大な公権力を持っている人と、彼らと結託した無理の脅威があれば伝道に支障をきたすことになります。殉教を覚悟した使徒たちだが彼らの脅威を恐れてはいないが、伝道活動に深刻な被害になるので、その脅威に対して神の適切な措置をしていただきと求めました。聖徒たちは、自分が直面している脅威だけでなく、他の聖徒たちが直面している脅威にも祈る必要があります。他の国の教会と信徒たちも祈る必要があります。神は脅かされる教会と聖徒たちの祈りを聞き、保護の手を差し伸べてくださいます。私たちは、過激なヒンズー教徒、イスラム教徒の脅威に被害と苦痛を受けるインドやアフリカの教会のために祈る必要があります。私たちは、中国のクリスチャンのために祈る必要があります。生命の脅威を受けている北朝鮮のクリスチャンのために祈る必要があります。

第二に、「神のみ言葉を大胆に伝えることができるようにしてください」と祈りました。

福音を伝えようとしたときに躊躇している途中口を開かなかった経験を持つ方は、福音を伝える人に大胆が必要であることをよく知っている。伝道するには知恵と熱心と大胆がかならず必要です。聖霊に満たされると大胆になります。福音を伝えることは、すべてのクリスチャンがすべき神聖な使命です。したがって、私たちは「神の言葉を大胆に伝えることができるようにしてください。」と祈る必要があります。

第三に、「イエスの名で癒しとしるしと不思議な奇跡が起きるようにしてください」と祈りました。

イエスの名前で起こる癒し、奇跡は福音を伝えるのに役立ちます。これらのことは、神の愛と力を目撃して体験することにしてくれるからです。ですから、イエスは弟子たちに病人のために祈り、治癒を得るように命じました。復活されたイエス様が弟子たちに命じられた言葉がマルコによる福音書 16 章にこう記されています。「そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」マルコによる福音書 16:15~18)。

聖書には、この言葉は、次のように記録された。「主イエスは彼らに語り終ってから、天にあげられ、神の右にすわられた。弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった。」（マルコによる福音書, 16:19,20）。使徒行伝 5 章 12 節には「そのころ、多くのしるしと奇跡とが、次々に使徒たちの手により人々の中で行われた。そして、一同は心をつにして、ソロモンの廊に集まっていた。」としました。ソロモンの廊は、初期エルサレム教会の集会の場所として使用された。しるしと奇跡が起きたので、人々が教会の集会に集まってきました。そしてその次の句節で「主を信じて仲間に加わる者が、男女とも、ますます多くなってきた。ついには、病人を大通りに運び出し、寝台や寝床の上に置いて、ペテロが通るとき、彼の影なりと、そのうちのだれかにかかるようにしたほどであった。またエルサレム附近の町々からも、大ぜいの人が、病人や汚れた霊に苦しめられている人たちを引き連れて、集まってきたが、その全部の者が、ひとり残らずいやされた」（使徒行伝 5:14~16）と記録された。使徒はペテロとパウロを通して示された奇跡が複数の場所で記録されています。今日も教会と信者が癒しとしるしと不思議な奇跡がたくさん起こるように、祈りが必要です。

今日の本文の使徒行伝 4:31 節には、「彼らが祈り終わると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した。」と記されている。使徒や聖徒の心を合わせ、祈りが終わると、彼らは集まったところが振動しました。神が彼らの祈りを喜んで聞いて答えられた表示です。今、神は、私たちが使徒たちのように祈るのを喜んで聞いて答えてくださいます。「主よ、脅えられのを大事にいただいて私達が大膽に神の言葉を伝えて与え癒しを受けるのを祈るとよくしていただき、イエスの名で奇跡が起きるようにしてください。」一人で祈るときにも、このように祈りなさい。また二人以上が集まって祈るときも同様に祈りなさい。「あなたがたは、求めないから得られないのだ」（ヤコブの手紙, 4:2）「わたしはエジプトの国から、あなたをつれ出したあなたの神、主である。あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう。」（詩篇, 81:10）これは、神の言葉で覚えて確かにして下さい。